

グローバル技術で 人と社会に貢献

To Contribute to Human Society by Global Technology

常務取締役
河盛裕三

Yuzo
Kawamori



塗料のポテンシャルと価値の創造を探求し、いち早く市場、お客様のニーズにお応えできるよう、研究活動に励んでおりますが、本誌『塗料の研究』はその研究活動の成果である新技術、新製品を皆様にお伝えするために発行させて頂いております。平素より小誌をご愛読いただくとともに、貴重なご意見を賜り誠に有難うございます。

モノだけでなく、資本が国境を越える時代になり、EUのように経済的な国境そのものをなくし、ヒト、モノ、カネが自由に往来する所謂グローバル化時代が進んでおります。

弊社もあるべき姿として、「顧客満足度の高い、世界的に存在感のある企業」を掲げております。そのための施策の一つとして、海外事業の拡大に努めて参りました。これまでPPG社との自動車塗料におけるアライアンスを始め、インド、東南アジア、中国などで実を結びつつあります。

グローバル化の進む製造業では、製品開発の短縮も大きな課題の一つですが、研究に携わる組織は、開発活動の永続性という観点からも10年、20年先を支える人が活躍でき、女性、外国人にも活躍してもらえるような組織が望まれます。単に技術開発にとどまらず、技術マネジメントを付加した考え方やシステム化も、併せて確立していかなければならないと考えております。このような時代に企業に求められるのは競争力ですが、企業、組織における競争力の源は、その中の構成員である従業員一人ひとりが互いに競争することで研究の成果が実ることであると存じております。

塗料におけるグローバル製品とは何か、と問われた時に次のような要件が挙げられると思います。

①環境を配慮したものであること、②コスト競争力に優れていること、③安定した品質を安定的に連続して供給できるものであること、④あらゆる使用環境、条件下でタフであること。

一方、これらの要件を満足する商品を作るには、グローバルに対応できる技術が必要であり、これをグローバル技術と呼ぶとすればその技術的要件は、「シンプルな単位技術で構成された総合技術」ではないかと考えております。

弊社では、2002年度に研究開発体制の大改革を行い、技術活動の機動力、スピードアップを図り、その後も更なるお客様指向とグローバル化に向けた機能的改革を続けて参りました。このような研究開発体制は、海外を併せたグループ各社の技術部門へのサポートも重要な仕事と位置付けており、技術のグローバル化と世界各地の技術活動の時間と距離をつめる役割も果たしております。

弊社は、自動車塗料に代表される工業用塗料の分野において高い評価を戴いておりますが、世界的に存在感のある会社を目指していくために、他分野、特に、汎用塗料分野については付加価値が高く、圧倒的にコスト競争力に優れたグローバル製品の開発を新たにスタートさせました。

今こそグローバル化に向けた技術開発活動の効率と業務品質の向上を図り、夢のある、人と社会に貢献できる企業を目指して参りたいと思います。

『塗料の研究』は、弊社技術活動の心音としても皆様にお伝えしてまいりましたが、これからも皆様のより一層のご支援、ご指導をお願い申し上げます。この心音をお伝え続けたいと存じます。